



1636年～1869年(約230年)

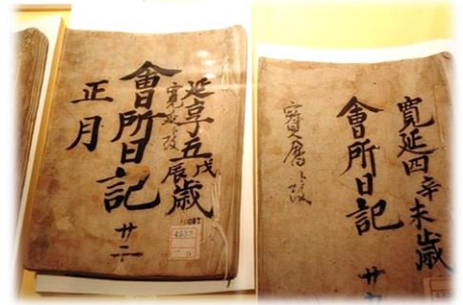
伊予西條藩を知る ②

(第一次西條藩)一柳家、(第二次西條藩)松平家



参勤交代 さんきんこうたい 1635年(寛永12年)～

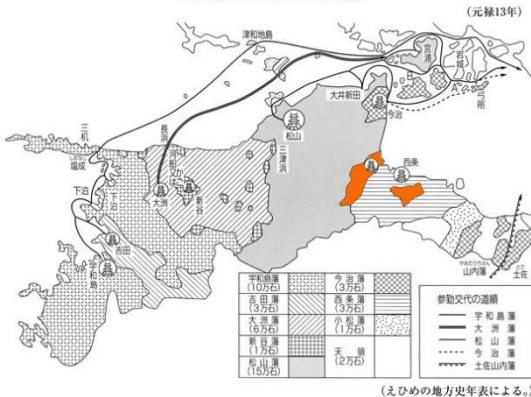
江戸時代、城もなく、正式な武士は僅か**60人**、藩内の人口は**1万人余**の小さな**伊予小松藩1万石**に**150年以上**にわたって書き継がれた膨大な公務日記【伊予小松藩 会所日記】が残っており、その中に「参勤交代」の費用が重い負担であったことが書かれている。



参勤交代は、江戸城の將軍家に忠誠を誓う行事である。江戸参勤は二年ごと江戸まで**800km**で旅費と江戸屋敷の維持費は、年貢収入の半分にあたる巨大な額であった。小松藩の大名行列は総勢**110人**ほどで、全藩士の半分近い数であった。

小大名と比べて加賀藩などの大名行列は総勢**4,000人**、伊達家の仙台藩は**3,500人**ほどであったことから、いかにみすばらしかったか判断できます。伊予小松藩 会所日記 によると小松藩の大名行列の日数は、大坂までの船旅が平均**8～9日**、伏見から江戸までが**13～14日**なので休息を含めると1ヵ月近くかかっている。一行の陸路の食費と宿泊費は往路で**600両**から**700両**である。帰りは藩士だけで荷物も減っているので**500両**ほどである。往復を合わせると**1,200両**ほどとみなされる。費用はこれだけでなく、將軍や老中、若年寄など幕府の最上層部へのお土産品、藩主が江戸に滞在するので、幕府へ行事の参加する交際費、江戸滞在中は毎月**100両弱**の生活費が支出され、そのために藩主の江戸滞在中の期間の費用や交際費全てを合計すると、**4,000両弱**が必要経費であった。参勤交代は、藩にとって多額の出費ではあるが、随行した者達は江戸で見聞を広めた。

参勤交代の道順と伊予の八藩、天領



※1両は、江戸時代初期の頃で10万円、中～後期で**3～5万円**、幕末頃は**3～4万円**である。

一方、第2次歴代西條藩主は、**江戸定府** (江戸に定住 | 現青山学院大学) で参勤交代をすることがなかったので、藩主の入国はまれで、生涯を通じて領国に足を踏み入れない藩主もみられた。初代藩主松平頼頼公は**5度**に渡って領国西條を訪れている。しかし以後は、二代松平頼致、三代松平頼渡公、その後西條藩主の入国はなく**106年**目に、九代松平頼学公、十代松平頼英公の入国があるにすぎなかった。第2次西條藩10代の藩主の入国は、およそ**200年**で5人で僅か**10回**のみであった。

(参考資料) : 伊予小松藩会所日記、小さな藩の奇跡、西條誌、愛媛県生涯学習センター、